

上野國  
佐野舟橋

〔夫木和歌抄二十一〕さの、ふなばし 近江又上野。

〔名所方角抄上野〕佐野 月よめり

道遠きさの、舟橋よをかけて月にぞわたる秋の旅人

あぢきなくかけては過じ中川の瀬だえはつらしさの、舟橋

〔楊鳴曉筆二名〕和國名所

佐野 舟橋、上野、

〔國花萬葉記上野〕さの、舟橋 近江に同名あり 大嘗會の名所也云々 當國の名景 落花

旅人 駒手の駒むけ あづまぢのさの、舟橋 かみつけのさの、舟橋

〔萬葉集十四〕東歌

可美都氣努カミツケヌ佐野サノ乃布奈波ノフナハ之登利波奈ノトリハナ之於也オケハ波左久禮騰ハサクレトウ和波左可禮ワハサカレ  
本禮一作流賀倍ガヘ略○中

右二十二首一〇二略上野國歌

〔萬葉集略解十四上〕船ばしは川に船を並べ綱もて杭につなぐ故とり放つ事もあれば、かくい

ひて、男とわが中をはなたる、にたとへたり、

〔詞林采葉抄五〕佐野舟橋 此橋在所先達歌枕處々ニカハレリ、然而當集○萬葉第十四卷歌略歌ト

リハナシトハ、此橋ヲ河ニハ渡サルニヤ、路ノ兩方水田ニテ板ヲウチ渡、ウチ渡スルトカヤ、然

者水ナキ時ハトリハナシテ置ト申、

〔拾遺愚草上〕内裏百首

參議藤原定家

戀二十首○中 佐野布奈橋

ことづてよさの、舟橋はるかなるよその思ひにこがれわたると

〔廻國雜記下〕三月○長享元年 二日とね川、あをやぎさぬきの庄、たてばやし、ちづか、うへ野の宿などう